

【午後問題】

PT国試○×一問一答

100問

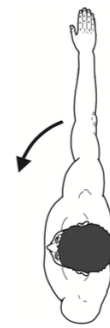
第61回理学療法士国家試験 編

(2026年2月施行)

□□□□□

関節可動域測定法(日本整形外科学会、日本リハビリテーション医学会基準 1995 年)に従って、右図のように肩関節の可動域を測定した。
測定の際には、肩甲骨の前方突出 に注意する。

○



□□□□□

45 歳の男性。右利き。脳梗塞による右片麻痺。Brunnstrom 法ステージ上肢Ⅵ、手指Ⅴ、下肢Ⅴ。上肢の可動域に制限はない。Daniels らの徒手筋力テストに基づき、右肩関節屈曲の段階 4 の検査を行う。
検査の際には、右肘関節の屈曲 が出現しないことを確認する。

○

□□□□□

70 歳の男性。脳梗塞による右片麻痺。Brunnstrom 法ステージは上肢Ⅱ、下肢Ⅲ。重度の感覚障害と右肩関節に亜脱臼を認める。T 字杖で室内歩行は自立している。
右図の方法でシャツを着る ADL 指導をすることは適切である。

○

□□□□□

腹臥位で膝関節を屈曲させたところ、右図のような現象が見られた。
短縮が疑われる筋は、腸腰筋 である。

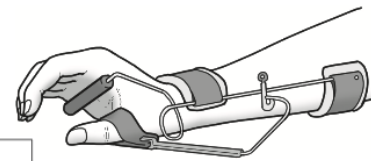
×：大腿直筋



□□□□□

58 歳の男性。飲酒後に自宅ソファで寝てしまい、起床時に右手が動かなくなったことを主訴に受診。橈骨神経麻痺(高位型)と診断された。長橈側手根伸筋より遠位の橈骨神経支配の筋は MMT で 0 ~ 1 レベルであった。1 か月後も自然回復を認めなかったため、
上肢装具を作製することになった。右図のような装具を作製することは、適切である。

○



□□□□□

下肢長の計測結果を、右の表に示す。
右下肢に関節可動域制限や変形はない。
左右差の原因で最も考えられるのは、左膝関節裂隙の狭小化 である。

×：左股関節裂隙の狭小化

	右	左
棘果長	84.0	82.0
転子果長	80.5	80.5
大腿長	44.5	44.5
下腿長	36.0	36.0

□□□□□

65 歳の女性。左変形性股関節症。3 年前からの左股関節痛に対して、後方進入法で人工股関節置換術を受けた。手術後 3 週までの患側下肢に対する理学療法として、術後翌日から 筋力増強運動 を開始する。

○

□□□□□

70 歳の女性。COPD。自宅療養中で ADL は自立しているが、自宅内の動作でたびたび息切れが生じている。呼吸困難感を減少させる生活指導として、洗濯物は肩よりも 高い位置 に干すことを指導する。

×：低い位置

□□□□□

78 歳の男性。肝癌に対する開腹術後 2 日。
術前評価で BMI 17.0、% 1 秒量 70 %、% 肺活量 75 %、喫煙歴は Brinkman 指数 1,000 であった。
呼吸器合併症を予防するための理学療法として、逆腹式呼吸 を指導する。

×：口すぼめ呼吸

□□□□□

14 歳の女子。運動器学校検診で側弯が指摘され、整形外科を受診。
画像検査で 胸椎カーブ 35 度の思春期特発性側弯症と診断された。画像を右に示す。
医師より装具療法の適応が示された。
この症例に対する装具療法では、胸腰仙椎装具(軟性) を装着する。

×：ボストンブレース



【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

□ □ □ □ □

78 歳の男性。18 時に突然右上下肢の脱力、呂律困難を自覚し救急搬送された。元々 ADL は自立しており、高血圧症に対して通院中であった。19 時に病院に到着し、頭部単純 CT で明らかな異常所見は見つからなかった。次に行う頭部画像検査として、MRI は適切である。

○

□ □ □ □ □

健常児。右図のように四つ這いから座位に戻れるようになった。
この児に観察される姿勢反射は、足底把握反射 と側方パラシュート反応である。

○



□ □ □ □ □

28 歳の男性。2 日前に交通事故で受傷し、脊髄損傷と診断されて入院加療が行われている。
Key muscle の MMT は両側三角筋 5、肘屈筋 5、肘伸筋 2、手関節 背屈筋 5、中指末節屈筋 0、小指外転筋 0、下肢筋は全て 0 であった。感覚については両側乳頭部まで触覚、痛覚が保たれていたが、それ以下の体幹部、下肢は脱失していた。直腸診では肛門の随意収縮、肛門深部圧、周囲の感覚は消失していた。
この患者の AIS は、A である。

○ : AIS 〈ASIA Impairment Scale〉 - ASIA 機能障害尺度

□ □ □ □ □

62 歳の男性。2 型糖尿病の発症から 20 年が経過している。歩行は自立していた。
2 か月前から両足部のしびれ感を自覚し、数日前に右足部第 1 指が暗赤色になっているのに気づき受診した。
両下肢に皮膚潰瘍はないが、感覚鈍麻を認めた。理学療法として、前足部の免荷 を行うことは適切である。

○

□ □ □ □ □

54 歳の男性。6 年前に左被殻出血の既往がある。立位時の様子を右図に示す。
下肢痙縮に対するボツリヌス療法の投与筋として、長腓骨筋 は適切である。

× : 後脛骨筋



□ □ □ □ □

65 歳の女性。50 歳代後半から振戦や歩行障害が生じ、Parkinson 病と診断された。L-dopa 服用により症状が改善し日常生活を送れていたが、最近薬の効用時間が短縮し、症状悪化が生じている。
この患者に起きている症状は、On-off 現象 である。

× : Wearing-off 現象

□ □ □ □ □

6 歳 8 か月の女兒。痙直型両麻痺。床上の座位は体幹が崩れるため座位保持ができない。立位保持や移乗にはいずれも介助が必要である。屋内は車輪付きの歩行器を使用して介助で 10 m ほど移動できる。学校や屋外移動は介助者による手動車椅子での移送、または電動車椅子を自立操作している。
GMFCS によるレベルは、レベル III である。

× : レベル IV ・ GMFC 〈Gross Motor Function Classification System〉 - 粗大運動機能分類システム

□ □ □ □ □

83 歳の男性。大動脈弁狭窄症に対する TAVI 術後。自転車エルゴメーターの運動療法で、連続して一定の負荷強度を加えると下肢疲労と血圧の上昇が顕著となるため、高強度負荷のペダル運動 45 秒と低強度でのペダル運動 90 秒を交互に組合せて実施した。この負荷様式は、Ramp 負荷 である。

× : インターバルトレーニング

□ □ □ □ □

8 歳の男児。二分脊椎。麻痺レベルは L 5。装具なしでも歩行可能であるが、バランスを崩し不安定である。歩行を安定させるため筋力増強運動を行う。増強する筋で最優先するのは、中殿筋 である。

○

□ □ □ □ □

61 歳の女性。脳梗塞による失語症。言語理解は良好である。発語は流暢であるが錯語や保続は認められた。呼称では「時計」を「ト、トチ、」と誤りに気づき自己修正を繰り返すが、失敗に終わる。復唱も不良である。失語症のタイプは、Wernicke 失語 である。

× : 伝導失語

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

□ □ □ □ □

正常歩行時の床反力では、垂直分力は 2 峰性の波形を示し、前後分力のピーク値は速度が 速く になると小さくなる。

×：遅く

□ □ □ □ □

松葉杖の一般的な設定では、握りの高さは 大転子 とする。

○

□ □ □ □ □

サルコペニアは、ロコモティブシンドローム〈ロコモ〉の一因となる。

○

□ □ □ □ □

深部感覚検査で使用する器具は、ノギス である。

×：音叉

□ □ □ □ □

Guillain-Barré 症候群は、循環器 の感染症を契機に発症することが多い。

×：呼吸器

□ □ □ □ □

疾患の症状と検査結果を、下の図に示す。

	症状あり	症状なし
検査陽性	30 人	40 人
検査陰性	70 人	60 人

陽性尤度比は、0.60 である。

×：0.75

陽性尤度比 = 感度 / (1 - 特異度)

感度 = 症状あり・検査陽性者 / 症状あり全体
= 30 / 30 + 70
= 0.3

特異度 = 症状なし・検査陰性者 / 症状なし全体
特異度 = 60 / 40 + 60
= 0.6

陽性尤度比 = 0.3 / 1 - 0.6
= 0.3 / 0.4
= 0.75

□ □ □ □ □

転倒予防を目的とした理学療法において、認知機能の低下 は、転倒リスクに関連すると考えられている。また、バランス練習は、静的バランスから動的バランスを段階的に練習する。

○

□ □ □ □ □

変形性膝関節症では、大腿四頭筋の 肥大 を認める。

×：萎縮

□ □ □ □ □

運動時のエネルギー供給において、有酸素性エネルギー供給は大量の ATP を生産できる。

○

□ □ □ □ □

フレイルの判定に用いる基本チェックリストを使い、二次予防事業対象者を選定する。また、基本チェックリストは、対象者に対面せず評価 できる。

○

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

□ □ □ □ □

1歩行率〈ケイデンス〉の単位は、メートル/分 である。

×：歩/分

□ □ □ □ □

訪問リハビリテーションの利用は、ICFにおいて 環境因子 である。

○

□ □ □ □ □

SIAS の股屈曲テストでは、座位保持 を介助しても構わない。

○：SIAS 〈Stroke Impairment Assessment Set〉 - 脳卒中機能評価法

□ □ □ □ □

下の図



の装具で治療する疾患は、先天性内反足 である。

×：发育性股関節形成不全

□ □ □ □ □

がん性疼痛において、疼痛のマネジメントには 精神的ケア を含む。

○

□ □ □ □ □

GMFM では、Item Map を作成できる。

○：GMFM 〈Gross Motor Function Measure〉 - 粗大運動能力尺度

□ □ □ □ □

NIHSSには、高次脳機能評価 が含まれる。

○：NIHSS 〈National Institutes of Health Stroke Scale〉 - NIH脳卒中スケール

□ □ □ □ □

小脳に腫瘍が発生すると、聴力障害 が発生する。

×：協調運動障害

□ □ □ □ □

心電図波形で心室の興奮過程を表すのは、T波 である。

×：QRS 波群

□ □ □ □ □

BBS の評価項目には、タンデム立位保持は 含まれない。

×：含まれる

BBS 〈Berg Balance Scale〉 - バークバランススケール

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

□ □ □ □ □

顔面神経の評価として、口唇を閉じさせ 力に抵抗できるかを見る。

○

□ □ □ □ □

糖尿病性神経障害に特徴的な所見として、下肢の 靴下型感覚障害 がある。

○

□ □ □ □ □

リンパ浮腫の複合的治療では、体重管理 を行う。

○

□ □ □ □ □

「HbA1c」「白血球数」「D ダイマー」「LDL コレステロール」「推算糸球体濾過量 (eGFR)」の中では、腎機能の評価に最も適した検査項目は、D ダイマー である。

×：推算糸球体濾過量 (eGFR)

□ □ □ □ □

コリンエステラーゼ阻害薬は、神経筋接合部のアセチルコリン濃度を 低下させる 。

×：高める

□ □ □ □ □

訪問リハビリテーションでは、家族 を対象とした目標設定も可能である。

○

□ □ □ □ □

拡張型心筋症・間質性肺疾患・脊髄小脳変性症・閉塞性動脈硬化症・変形性肘関節症の内、介護保険法に規定される特定疾病は、拡張型心筋症 と脊髄小脳変性症である。

×：閉塞性動脈硬化症

□ □ □ □ □

要介護者に対するケアプランでは、作成は 全額 が介護保険から給付される。

○：2026年2月時点

□ □ □ □ □

パソコン作業における筋骨格系障害の予防として、椅子の座面が 低い 場合は、足置き用の台を使用する。

×：高い

□ □ □ □ □

前向き臨床研究における倫理上、事前に取得するデータについて 説明しない 。

また、対象者は研究を途中で中止しても不利益はない。

×：説明する

□ □ □ □ □

筋強剛・運動麻痺・温痛覚障害・深部覚障害・手袋靴下型感覚障害の内、Brown-Séquard 症候群で、損傷レベル以下の対側に最も出現しやすい症状は、深部覚障害 である。

×：温痛覚障害

□ □ □ □ □

視床へ上行性に接続するのは、副神経 である。

×：内側毛帯

□ □ □ □ □

橈骨神経は、腕神経叢の 後神経束 から分枝する。また、腕橈骨筋を支配する。

○

□ □ □ □ □

橋から出る脳神経は、舌咽神経 である。

×：三叉神経

□ □ □ □ □

広背筋を支配している神経は、肩甲上神経 である。

×：胸背神経

□ □ □ □ □

後大脳動脈から分枝する血管に栄養されているのは、視床 である。

○

□ □ □ □ □

尿管口は、膀胱底部 に開口する。また、男性の尿道は前立腺を貫く。

○

□ □ □ □ □

甲状腺は、カルシトニン を分泌する。

○

□ □ □ □ □

半規管は頭部の 回転運動 を感知する。

○

□ □ □ □ □

尺骨神経は、肘頭と 上腕骨外側上顆 の間で触知できる。

×：上腕骨内側上顆

□ □ □ □ □

平滑筋の代謝は、解糖系 に依存している。

○

□ □ □ □ □

疼痛を伝達する神経線維は、Aβ とC 繊維である。

×：Aδ - Aデルタ

□ □ □ □ □

交感神経 は、直腸平滑筋の収縮に作用する。

×：副交感神経

□ □ □ □ □

呼吸生理において、脈血二酸化炭素分圧 が増加すると pH は低下する。

○

□ □ □ □ □

アナフィラキシーショックに関与するのは、好中球 である。

×：肥満細胞

□ □ □ □ □

排便の生理において、食事 により胃大腸反射が生じる。

○

□ □ □ □ □

体温の受容器は腹腔にある。また、脾臓 は熱産生を行う。

×：肝臓

□ □ □ □ □

男性生殖器による射精は、交感神経 の作用による。また、射精時は膀胱内括約筋が収縮する。

○

□ □ □ □ □

蛋白質の呼吸商は脂質より 小さい 。

×：大きい

□ □ □ □ □

肩甲骨に対する前鋸筋と僧帽筋上部線維の作用で共通するのは、上方回旋 である。

○

□ □ □ □ □

立位姿勢において、支持基底面 は足底とその間を含む面である。

○

□ □ □ □ □

足部外がえしに作用するのは、後脛骨筋 である。

×：長腓骨筋

□ □ □ □ □

遠心性収縮が生じるのは、頭上の手を下ろすときの 三角筋前部線維 と、立位から椅子に座るときの大腿四頭筋である。

○

□ □ □ □ □

健常者の歩行では、遊脚後期に遊脚側下肢の動きが 加速 する。

×：減速

□ □ □ □ □

ショックの症状は、呼吸促迫や 多尿 である。

×：徐脈

□ □ □ □ □

結核菌・破傷風菌・ノロウイルス・コロナウイルス・B 型肝炎ウイルスの中で、経口感染するのは、ノロウイルス である。

○

□ □ □ □ □

振戦・疼痛・脊髄圧迫・病的骨折・高カルシウム血症の内、がんの骨転移による症候でないのは、高カルシウム血症 である。

×：振戦

□ □ □ □ □

末梢血管抵抗が上昇するショックは、敗血症性 である。

×：失血性

□ □ □ □ □

性欲をスポーツに打ち込むことで解消しようとする防衛機制は、昇華 である。

○

□ □ □ □ □

うつ病患者が「先生は否定するが、私は不治の病にかかっていて助からない」と訴えた。この患者の症状で最も考えられるのは、心気妄想 である。

○

□ □ □ □ □

以下の文章

- ・「何か文章を書いてください」
- ・「私の手の形を真似してください」
- ・「この図版を見て何が見えるか教えてください」
- ・「私がこれから言う数字を逆から言ってください」
- ・「知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください」

の中で、HDS-R の質問に含まれるのは、「何か文章を書いてください」と、「知っている野菜の名前をできるだけ多く言ってください」である。

×：「私がこれから言う数字を逆から言ってください」

□ □ □ □ □

筋量・身長・体重・骨密度・歩行速度の内、サルコペニア(AWGS 2019〈Asian Working Group for Sarcopenia 2019〉)の評価項目は、筋量と 体重 である。

×：歩行速度

□ □ □ □ □

角膜反射に関わるのは、顔面神経と 三叉神経 である。

○

□ □ □ □ □

以下の説明

- ・がんの病期分類である。
- ・腫瘍の大きさを含める。
- ・遠隔転移の有無を含める。
- ・臓器に特異的な分類である。
- ・リンパ行性転移の有無を含める。

の内、TNM 分類で誤っているのは、「臓器に特異的な分類である。」である。

○

T (Tumor)：腫瘍（原発巣）の大きさと進展度。T1 から 4 までの 4 段階に分かれる。

N (Nodes)：所属するリンパ節への転移状況。転移のないものは N0、第一次リンパ節、第二次リンパ節への転移、周囲への浸潤の有無から N3 までの段階に分かれる。

M (Metastasis)：遠隔転移の有無。遠隔転移がないなら M0、あれば M1 となる。

□ □ □ □ □

ホメオスターシスを維持する中枢があるのは、視床 である。

×：視床下部

□ □ □ □ □

納豆を食べると作用が減弱するのは、アンジオテンシン変換酵素阻害剤 である。

×：ワルファリン

□ □ □ □ □

室内空調が陽圧に調整されているのは、集中治療室 である。

○

□ □ □ □ □

アキレス腱断裂の際には、Thompson テスト陽性 となる。

○

□ □ □ □ □

骨折後に偽関節を生じやすいのは、上腕骨骨幹部 である。

×：手の舟状骨

□ □ □ □ □

SPECT・頭部 CT・針筋電図・頸部超音波・体性感覚誘発電位の内、筋萎縮性側索硬化症で診断に最も有用な検査は、針筋電図 である。

○

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

□ □ □ □ □

痙直型よりアテトーゼ型の脳性麻痺で特徴的なのは、不随意運動 である。

○

□ □ □ □ □

眼底・聴力・尿蛋白・足部感覚・アキレス腱反射の中で、糖尿病の合併症に対する検査で優先度が低いのは、尿蛋白 である。

×：聴力

□ □ □ □ □

「C7~T2」「T11~L1」「L2・L3」「L5・S1」「S2~S5」の中で、転移性脊椎腫瘍の部位で、最も安定性が高いのは、T11~L1 である。

×：S2~S5

□ □ □ □ □

がんの放射線療法の晩期に出現する副作用は、骨壊死 である。

○

□ □ □ □ □

生活保護の制度・介護保険による給付・市場サービスの購入・住民ボランティアの支援・自身による健康への取り組みの内、地域包括ケアシステムにおける互助は、自身による健康への取り組み である。

×：住民ボランティアの支援

□ □ □ □ □

アルコール依存症では、抑うつ が併存することが多い。

○

□ □ □ □ □

水俣病の原因物質は、カドミウム である。

×：有機水銀

□ □ □ □ □

以下の発言

- ・「発作が起こるのが心配で長距離の移動ができません」
- ・「ガスの元栓を閉めたか、何度も確認しないと気がすみません」
- ・「何をしても現実感がなく、まるで映画の中の世界にいます」
- ・「突然の予定変更があると臨機応変に対応できず、感情が激しく乱れます」
- ・「人前では緊張してしまうように話せないで、親友に頼まれた結婚式のスピーチを断りました」

の内、自閉スペクトラム症〈自閉症スペクトラム障害〉を強く示唆する患者の発言は、「人前では緊張してしまうように話せないで、親友に頼まれた結婚式のスピーチを断りました」 である。

×：「突然の予定変更があると臨機応変に対応できず、感情が激しく乱れます」

□ □ □ □ □

以下の説明

- ・明日中に限定した支援を行う。
- ・精神障害が軽度な患者が対象である。
- ・チームでのケアマネジメントを行う。
- ・短時間であっても頻回に利用者への訪問を行う。
- ・スタッフ 1 人当たりの受持患者数を 25 人程度に抑えることが推奨される。

の内、ACT で正しいのは、「チームでのケアマネジメントを行う。」と「短時間であっても頻回に利用者への訪問を行う。」である。

○：ACT〈Assertive Community Treatment〉- 包括的地域生活支援プログラム

□ □ □ □ □

系統的脱感作法では、不安階層表 を作成する。

○

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験

作成への想い：

理学療法士国家試験の攻略に向けて国試の過去問を解く上で、最低限これだけの知識があれば

✓ 第61回理学療法士国家試験の問題の合格点に達することができる

ような学習教材（問題集）を作りたいと考えて、今回のPT国試〇×一問一答を作成しました。
2027年2月に施行される

・第62回理学療法士国家試験

の対策としてお役に立つことがありましたら幸いです。

また、国試対策として、過去5～10年分の過去問を分析されている受験生の方もいるのではないかと思います。

そのため、2027年2月の国試以降に国試を受験される方にも、ご活用いただけますと幸いです。

赤シートなどを使って何度も問題にチャレンジする中で、苦手な問題を把握し、苦手を克服するために必要事項を書き込みして、理学療法士国家試験対策のための世界に1つだけのオリジナルの教材を作成してみてください。

この教材を使ってくださったPT学生の方が、目指すべく理学療法士国家試験で実力を発揮し、無事に合格されますように

出典：

厚生労働省

第61回理学療法士国家試験、第61回作業療法士国家試験の問題および正答について

第61回理学療法士国家試験及び第61回作業療法士国家試験の合格発表について

に公開されている資料内の文章・図などを一部引用・改変して作成

タイトル：

【午後問題】

PT国試〇×一問一答

100問

第61回理学療法士国家試験 編（2026年2月施行）

初版：

2026年8月2日

作成者：

© PT・OT・STニュース.blog（ptotstニュース）

[@ptotstnews_blog](#)（Xアカウント）

記事ページ：

[【マルバツ一問一答】第61回理学療法士国家試験 編](#)

（PT・OT・STニュース.blogにリンクします）

PT国試対策関連ページ：

[【過去問アーカイブ】理学療法士国家試験（PDF一括・個別ダウンロード）](#)

（PT・OT・STニュース.blogにリンクします）

【午後問題】

第61回理学療法士国家試験